

2025 年度 学校法人 三幸学園 千葉医療秘書&IT 専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 三浦 明子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 市川 静夫

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 愛校心の醸成

新入生クラスをサポートとしてオリターを配置。新入生オリエンテーション後も継続したクラス支援をオリターの学生が実施。夏のイベントの実施や就職活動の講話や HR への積極的参加に縦の良い関係性を構築。

クラスリーダーによる学内イベントの実施により、クラス・学科・学年を越えて交流を図った。

学校生活アンケート結果 今のクラスに満足している 本校平均 3.48(全国平均 3.41)

(2) 検定合格率の向上

過去問題演習や補講等の対策を実施しているが、学生による学習意欲や取組状況に差が見られる。今後は学習進捗の可視化や個別支援を強化し、検定合格率の更なる向上を目指す。(必須検定合格率 80%)

(3) 出席率(授業・行事)の向上

一部学科でハイフレックス授業の導入、授業の受け方を自分で選択できるように設定。行事出席の向上のため、オリターの学生から動機づけ、教員からの動機付けを実施。参加方法についても学生が自分で選ぶことができる方法を取っているが、学習に結び付きにくい行事への参加率は低くなる傾向がある。

出席状況の管理や個別支援を実施しているものの、一部学生に欠席の長期化が見られる。早期介入の仕組みを強化するとともに、授業や行事への主体的な参加を促し、出席率向上に取り組む。(出席率 90%)

(4) 留学生受け入れ体制の強化

2025 年度は 2 年生 2 名、1 年生 11 名の受け入れ。留学生受入れの学校において適正校を目指す。入国管理等の知識不足、受け入れ体制の構築に課題がある。

また日本語学校との連携強化や学習・生活支援の充実を図り、留学生が安心して学べる環境整備を推進する。また、適切な在籍管理と就職支援を通じて、留学生の学修成果向上と進路実現を支援する。

② 学校関係者評価委員会コメント

・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEB デザイン・IT 科について)

組織に愛着を持つためには心理的安全性が重要であり、学校内外問わずコミュニケーションの取れる場を多く提供していくべきである。行事等、学内での取り組みはもちろんのこと実習や外部企業との連携を効果的に活用して 1 人 1 人が活躍できる機会提供をさらに進めてほしい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校理念や育成人材像、ディプロマ・ポリシーは明確に定められているものの、業界ニーズの変化を踏まえた教育活動への反映や、学科ごとの教育目標との連動や、教職員・学生への浸透について更なる強化が必要である。

② 今後の改善方策

ディプロマ・ポリシーを基軸として、教育課程編成委員会や業界関係者からの意見を教育目標やカリキュラムへ反映し、育成人材像と業界ニーズの整合性を高めるとともに、教職員・学生への理解浸透を推進する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

平井委員（WEB デザイン・IT 科について）

育成すべき人材像として、あたりまえの事をあたりまえにできる事が最も重要である。

オンライン授業等の普及により近年学校に登校する意識が低下しており、就職後も安易に欠勤をするようになってきている。しかしどのような会社においても決められた日に責任をもって業務に取り組むこと、安易に欠勤しないというのは大前提の為、社会人としてのマナー・ルール教育は再度徹底をしていくべきである。

・市川委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科）

報告・連絡・相談（報連相）や挨拶を含めたコミュニケーション力や待ちの姿勢ではなく自ら考えて行動できる主体性が医療現場では求められる。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

学校運営に関する各種制度や体制は整備されているものの、地域社会に対するコンプライアンス意識の更なる向上が課題である。特に、一部学生による喫煙やマナー違反等に起因する地域からの指摘が寄せられており、地域社会の一員としての自覚醸成が求められている。

② 今後の改善方策

学生へのコンプライアンス教育や生活指導を強化するとともに、地域清掃活動やボランティア活動への参加を通じて地域との関わりを深める。地域から信頼され愛される学校づくりを目指し、社会人としての規範意識やマナーの定着を図る。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・佐藤委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について）

コンプライアンス意識向上の取り組みとして、SNSの危険性について学校全体で指導をしていくことも重要である。どのような指導においても保護者の協力・理解は必要不可欠であり、入学時での説明および協力依頼は必要不可欠である。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

業界との連携を通じて実務経験豊富な教員の確保や教職員の資質向上に取り組んでいる。一方で、一部業務や人的ネットワークが属人化している点が課題であり、研修で得た知識や手法を学生指導や授業改善へ十分に活かしきれていないため、組織的な共有と実践を強化していく必要がある。

② 今後の改善方策

業界との連携体制や講師ネットワークの見える化を進め、特定の教職員に依存しない組織的な運営体制の構築を図る。また、研修受講後の報告会や事例共有の機会を設けることで、研修成果を授業改善や学生指導へ反映し、組織全体の教育力向上につなげていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について)

人材確保は医療業界でも大きな課題である。募集活動を行ってもそもそも応募が来ないのが現状であり、採用倍率が低下している。採用した人材も研修に時間をかけることもできず、定着をしないため、悪循環になってしまっている。

・平井委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について)

人材定着には理念にどれだけ理解があるかが重要である。理念理解が薄いと業務の目的を見失い、離職につながりやすいため、教育現場の人材募集や学生募集の段階で法人の理念に理解をしていただく事が重要である。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

就職支援体制の整備により一定の成果は得られているものの、希望業界への就職率向上には更なる取組が必要である。また、留学生支援やメンタル面のサポートに対するニーズが高まっており、個々の状況に応じた支援体制の充実が求められる。加えて、卒業生の活躍状況やキャリア形成を継続的に把握し、教育活動の改善へ活かす仕組みについては発展途上である。

② 今後の改善方策

業界との連携強化や個別キャリア支援の充実により、希望業界への就職率向上を図る。また、留学生支援体制や学生相談体制を強化し、学習面・生活面・心理面を含めた総合的な支援を推進する。さらに、卒業生アンケートや企業ヒアリング等を定期的の実施し、卒業後のキャリア形成状況を把握するとともに、その結果を教育内容や学生指導の改善に活用していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・網谷委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について）

卒業生ができる事として卒業生講話の機会を増やすことで、在校生と直接コミュニケーションがとれ学業の不安解消や将来のキャリアイメージの明確化につながると感じる。協力したいと考えている卒業生も多いため、機会があれば積極的に参加したい。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

学生相談や経済支援、健康管理等の支援体制は整備されているものの、希望進路の実現に向けた就職支援や中途退学防止に関する取組については更なる強化が必要である。また、留学生を含む多様な学生への支援ニーズが高まる中、課外活動への参加促進や社会人学生への支援、高校との連携によるキャリア教育の充実にも課題が見られる。

② 今後の改善方策

学生一人ひとりの状況に応じた個別支援を強化するとともに、企業連携によるキャリア支援や就職指導の充実を図る。また、欠席・成績・生活状況の早期把握による中途退学防止に取り組むほか、留学生支援体制の強化、課外活動への参加促進、高校との連携強化を通じて、学生の成長と進路実現を支援していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・佐藤委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について)

高校生は卒業後の進路イメージが明確でないまま進学先を決め、入学後ギャップを感じて退学に至るケースが多い。

入学前のオープンキャンパスや体験授業を通じて、職業の魅力を伝え、共感をしてもらうことで入学後のギャップも少なくなり、退学率低減につながると感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

実習施設やインターンシップ等の実践的な教育環境は整備されているものの、学生の職業イメージ醸成に向けた学外実習（現場体験等）を行うために実習先との実習内容等の連携が必要である。また、防災・安全管理についても、災害発生時を想定した訓練や危機管理意識の更なる向上が求められる。

② 今後の改善方策

教育効果や利用状況を踏まえた施設・設備の計画的な更新を進めるとともに、ICT 環境を含めた学習環境の充実を図る。また、防災訓練や安全教育を継続的に実施し、学生・教職員の防災意識向上と危機管理体制の強化に取り組む。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・平井委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について）

各校ハイフレックス授業の導入率が増加しているが、授業を実施していく中でもオンライン・対面では学びの習熟度に差があると感じる。技術指導を有する科目については原則対面授業にて運営をしていくとより個々の技術力も向上していくと感じる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

学生募集活動や入学選考は関係法令及び募集要項に基づき適正に実施できている。また、留学生についても入学目的や学習意欲、日本語能力等を確認した上で選考を行っている。一方で、少子化や留学生市場の変化に伴い、より質の高い学生募集と入学後のミスマッチ防止が課題となっている。

② 今後の改善方策

学生募集活動や入学選考は関係法令及び募集要項に基づき適正に実施できている。また、留学生についても入学目的や学習意欲、日本語能力等を確認した上で選考を行っているが、ビザへの切り替え時の審査がいままで以上に厳格化されるため、より具体的な内容の確認が必要。一方で、少子化や留学生市場の変化に伴い、より質の高い学生募集と入学後のミスマッチ防止が課題となっている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

関係法令の遵守や個人情報保護、自己評価の実施・公表については適切に運用されている。一方で、法令改正や社会環境の変化への迅速な対応、個人情報保護やコンプライアンスに対する教職員の意識向上を継続的に図る必要がある。

② 今後の改善方策

関係法令の遵守や個人情報保護体制は適切に運用されているが、法令改正や社会環境の変化に対応できる組織体制の強化が必要である。今後はコンプライアンス研修や情報セキュリティ対策を充実させるとともに、自己評価結果を活用した継続的な改善活動を推進していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

学校の教育資源を活用した地域貢献活動として、地域住民を対象としたハロウィンイベント等を実施している。一方で、学生が主体的に参加できるボランティア活動の機会は十分とは言えず、地域に対する公開講座や教育訓練事業についても未実施であることから、更なる地域連携の推進が課題となっている。

② 今後の改善方策

地域住民を対象としたイベントを実施し、地域との交流機会を設けている。一方で、地域住民や社会人を対象とした公開講座や教育訓練の受託実績は少なく、学校の専門性（医療・WEB・国際分野）を活かした講座開設について検討を進めていく必要がある。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・網谷委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について）

在学中、業界内でのボランティアが少ないと感じた。医療や福祉、地域のイベント等、関われる機会も多いので業界へのボランティア誘致は必要である。

・市川委員（医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について）

病院がボランティア募集を行う機会は少ないが、学校とタイアップしてイベントを企画する等は可能であるため積極的に提案を頂いて構わない。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

留学生の受入れ及び在籍管理については一定の体制を整備しているものの、入学者の多くが国内の日本語学校からの進学者であり、海外からの直接募集による入学実績は限定的である。また、国際交流や学習成果の対外的な発信についても発展途上の段階にあり、留学生から選ばれる学校づくりと受入体制の更なる強化が課題となっている。

② 今後の改善方策

海外の教育機関や現地エージェントとの連携強化を進め、海外からの直接募集ルートの開拓を図る。また、教育成果や就職実績の発信を強化し、留学生から選ばれる学校運営を推進する。加えて、在籍管理や生活支援を担う専門スタッフの配置・育成を進めることで管理体制の安定化を図り、適正校としての体制強化に取り組む。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・平井委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について)

留学生の受け入れ体制は整ってきているが、入学する学生の日本語理解度に差があり、提供している授業の難易度があっていないと感ずることがあるため、入学前の説明や学ぶ内容の理解は重要である。

・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科)

医療現場でも外国籍の方が看護師や看護助手として勤務している。日本語力はJLPT1級程度。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・網谷委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について)

卒業生が協力して在校生のサポートを行うなど、まだまだ協力していけることはあると感じたため、卒業生のネットワークを生かして多くの機会を学校から提案頂きたい。

・市川委員(医療秘書科、医療事務科、診療情報管理士科、WEBデザイン・IT科について)

毎年模擬面接など御校の取り組みに多く関わらせていただいているが、年々あいさつやコミュニケーション能力に個人差が出てきていると感じる。学生が育った環境など、様々な要因が考えられるが、就職活動時にはそれ相応のレベルが求められるため、引き続き学内で指導を徹底していただき、知識面と人間性両方を兼ね備えている人材を多く業界に排出してほしい。